

実績評価書

平成18年7月

政策体系	番号					
基本目標	1 1	国民生活の向上に関わる科学技術の振興を図ること				
施策目標	1	国立試験研究機関等の体制を整備すること				
	II	時代に合った研究機関の再編整備を行うこと				
担当部局・課	主管部局・課	大臣官房厚生科学課				
	関係部局・課					
実績目標 1	国立試験研究機関の再構築を推進し、かつメディカル・フロンティア戦略を推進すること					
<p>(実績目標を達成するための手段の概要)</p> <p>国立試験研究機関の再構築計画(平成7年)及びメディカル・フロンティア戦略(平成13年)に基づき、ゲノム科学、たんぱく質科学等の基礎研究について、その成果を医薬品等の開発に橋渡しするための基盤的な技術開発や研究資源の適正な提供を行う拠点的研究機関として、平成16年度に医薬基盤技術研究施設(正式名称:国立医薬品食品衛生研究所大阪支所)を設置した。</p> <p>さらに、当該施設と独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「研究開発振興業務」を統合するとともに、これらの研究に密接に関連する研究資源を一元的に管理する「独立行政法人医薬基盤研究所」を設立する。</p> <p>○ 関連する経費(平成17年度予算額)</p> <ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人医薬基盤研究所運営費交付金 11,474百万円 <p>(評価指標の考え方)</p> <p>時代にあった研究機関の再編を行う。</p>						
(評価指標)		H13	H14	H15	H16	H17
医薬基盤技術研究施設		—	—	—	設置	—
及び独立行政法人医薬基盤研究所の設置		—	—	—	—	設置
(備考) メディカル・フロンティア戦略は2005年度で終了。						

2. 評価

(1) 現状分析

現状分析	
------	--

時代の要請に的確に対応した研究を推進するためには、国立試験研究機関の重点整備・再構築が必要であることから、平成7年以降順次進めてきたところであり、今後とも必要に応じて進めていく必要がある。

また、メディカル・フロンティア戦略はがん、脳卒中、痴呆などの疾病の予防と治療成績の向上を目的としており、この実現のためにはゲノム科学やタンパク質科学による発症機構の解明を踏まえた治療技術・新薬等の研究の推進が必要である。

(2) 評価結果

施策手段の有効性の評価

- ① 時代の要請に的確に対応した研究を推進するためには、国立試験研究機関の重点整備・再構築を進めることが有効である。
- ② メディカル・フロンティア戦略は、がん、脳卒中、痴呆などの疾病の予防と治療成績の向上を目的としており、この実現のためにはゲノム科学やタンパク質科学による発症機構の解明を踏まえた治療技術・新薬等の研究の推進が必要である。
- ③ 以上により、平成16年度にはその一環として、最先端分野であるゲノム科学等の基礎研究について、その成果を画期的な医薬品の開発に橋渡しするための技術開発等を行うため、医薬基盤技術研究施設（正式名称：国立医薬品食品衛生研究所大阪支所）を設置。さらに平成17年度には、当該施設と独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「研究開発振興業務」を統合するとともに、薬用植物及び細胞（国立医薬品食品衛生研究所の業務の一部を移管。）並びに霊長類、実験動物及び遺伝子（国立感染症研究所の業務の一部を移管。）など、これらの研究に密接に関連する研究資源を一元的に管理する「独立行政法人医薬基盤研究所」を設立したところである。

政策手段の効率性の評価

医薬基盤技術研究施設（正式名称：国立医薬品食品衛生研究所大阪支所）の行う研究開発は、がん、脳卒中、痴呆といった疾病の克服や個人の体質に合わせた（副作用の少ない）医療の実現を目指すものであり、医療上の必要性が高いものである。同時に、その成果を製品化に結びつけるためには、更に臨床研究等が必要であり、それ自体が直ちに製品化に直結するものではないなど、高いリスクを伴うものである。

このため、必ずしも民間企業による推進を期待することができないことから、公的主体において積極的に進めることが効率的である。

独立行政法人医薬基盤研究所の行う研究開発も、同様の理由から、公的主体において積極的に進めることが効率的である。

総合的な評価

時代の要請に的確に対応した研究を推進するために、国立試験研究機関の重点整

備・再構築を着実に進めている。また、その一環として、平成17年度には独立行政法人医薬基盤研究所を設置し、メディカル・フロンティア戦略を効率的に進めた。今後も、国立試験研究機関、大学、製薬業界等との共同研究など、産学官連携を推進できる運営の確保を図ることが適当である。

評価結果分類	分析分類
1 目標を達成した	1 分析が的確に行われている
② 達成に向けて進展があった	② 分析がおおむね的確に行われている
3 達成に向けて進展がみられない	3 分析があまりの確でない

3. 特記事項

①学識経験を有する者の知見の活用に関する事項

医薬基盤技術研究施設(仮称)における研究のあり方等について、厚生科学研究費補助金による調査研究を行い、主任研究者の岸本大阪大学総長が報告書(画期的な医薬品等の開発のための基盤技術開発研究等のあり方に関する研究)を取りまとめている。

②各種政府決定との関係及び遵守状況

(「地方分権推進計画」「国の行政組織等の減量、効率化等に関する基本計画」「第10次定員削減計画」「行政改革大綱」等)

- ・ 科学技術基本計画(平成13年3月30日閣議決定)において、「プロテオミクス、タンパク質の立体構造や疾患・薬物反応性遺伝子の解明、それらを基礎とした新薬の開発とオーダーメイド医療や機能性食品の開発等の実現に向けたゲノム科学」の研究開発を国において重点的に推進することとされている。
- ・ 150回国会における森内閣総理大臣所信表明演説(平成12年9月21日)において「働き盛りの二大死因であるがん、心筋梗塞や、要介護の原因となる脳卒中、痴呆、骨折について、「メディカル・フロンティア戦略」に基づき、総合的な取組を進めてまいります。」とされている。

③総務省による行政評価・監視等の状況

なし

④国会による決議等の状況(警告決議、付帯決議等)

平成14年の臨時国会において、「独立行政法人医薬品医療機器総合機構における研究開発業務については、同機構を審査関連業務、安全対策業務及び健康被害救済業務に専念させるとともに、その一層の効果的展開を図る観点から、早急に同機構の業務から分離すること」との国会決議がなされている。

⑤会計検査院による指摘
なし